



バックナンバーはこちらから御覧いただけます。

Hokkaido community and school collaboration

# 地学協働

2026年2月

# No.41

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

## 1 北海道地学協働アワード2025 表彰式



北海道地学協働アワード2025

産業連携 部門

JAグループ北海道賞

北海道  
静内農業  
高等学校



# グランプリ 北海道 静内農業高等学校

2月17日（火）に後援・協賛いただいた各企業・団体の方及び各受賞校の生徒・関係者を迎え、北海道地学協働アワード2025表彰式が、北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）にて挙行されました。

当日、会場にてグランプリの発表があり、静内農業高校が、2025年度のグランプリを獲得しました。

中島教育長から賞状及びトロフィーが手渡され、静内農業高校の生徒から「地域の方には、感謝しかない」「商品開発を頑張り、このような賞をこれからも目指したい」とグランプリ受賞の喜びを語りました。

おめでとうございます！ 各賞の受賞校を紹介します

北海道地学協働アワード2025

生徒の声部門

北海道教育大学賞

北海道  
上ノ国  
高等学校



北海道地学協働アワード2025

スポーツ・文化連携部門

コンサドーレ賞

北海道  
松前  
高等学校



北海道地学協働アワード2025

フリー部門

地学協働アドバイザー賞

北海道  
根室  
高等学校



北海道地学協働アワード2025

クリエイティブ  
特別賞

全ての応募記事の中から選定

北海道  
東川  
高等学校



## 2 コーディネーターに必要な力 (令和7年度 地域コーディネーター研修講座 から)

「コーディネーターに必要な力」について、令和7年10月に開催した「地域コーディネーター研修講座」の講義内容の一部を紹介します。

講師をお務めいただいた、安平町教育委員会子育て・教育総合専門官の岡崎エミ氏からは、コーディネーターに必要な力を明確にお示しいただきながらも「コーディネーターに唯一解はありません。それぞれのスタイルの確立を目指しましょう」と誰もが前を向くことができるエールをいただきました。

**連絡・調整にとどまらず、越境的協働を成立させるのがコーディネーターの仕事です！**



教育に関わるコーディネーターは、自分のやりたい教育を行う存在ではありません…

### ① 文化的翻訳

学校や地域によって異なる価値観や言語を、お互いが理解できるように通訳することが必要です。

### ② フレーミング

学校や企業などがそれぞれ持つ異なる目標を理解し、協働の意味付けをすることが必要です。

### ③ ネットワーキング

人と人が知り合い、つながり合える関係づくりを進めることが必要です。

### ④ 組織化

ネットワークが、持続可能なものとなるように体制づくりをすることが必要です。

**情報収集や相手を知り自分を知ってもらうことにも有効な「聞く力」を高めましょう！**

### ① じっくり聴く

うなずきながら、表情豊かに接することで、相手が安心して話し続けることができます。

### ② 共感して聴く

「なるほど!」「確かに!」と反応することで、相手が自分を理解してくれていると感じ、さらに本音を話してくれることにつながります。

### ③ 質問して聴く

5W1Hや時系列を確認することで、相手が自分の考えをまとめ、本音に気付くことができます。

### ④ 要約して聴く

「つまり～ということですか」と尋ねることで、相手に自分の理解が正しいかを確認し、相手の考えを整理することにもつながります。

### コーディネーターに必要な力「聞く力」

#### 聞く

情報収集

相手を知る  
ニーズ調査

自分を  
知ってもらう

信頼関係  
づくり

ソーシャル  
キャピタル  
社会関係資本

ファシリ  
テーション

### 事例「追分の学校を考える会」(安平町)

#### ① 簡単な経歴 (生まれた所から今まで)

- どんな教育を受けてきたのか
- どんな仕事をしてきたのか
- 大切にしてきたこと
- 決断の軸

#### ② 地域の魅力・課題 (現状)

#### ③ こんな地域になったらいいな

#### ④ そのためには、どのような人材を育てたいか

#### ⑤ そのような人材育成には、どのような教育が必要か

#### ⑥ そのために、あなたは何かができるか?

**ヒアリングに挑戦してみましょう！**

#### ○ 初対面の方が「経歴」などは聞きやすい

今後、地域人材の力を効果的に活用できるよう、相手の価値観や大切にしている思いなどをしっかり聞き取りましょう。相手のモチベーションを把握しておくことで、今後の協働活動の計画が立てやすくなります。

よいヒアリングは、インタビューされる側にとっても、自身の気付きが促され、新たな自分や可能性を発見できるものになります。

(前ページからの続き) コーディネーターの「在り方」について、3つの考え方を紹介します!

### ① 黒子だけどビジョナリー (縁の下の力持ち)

コーディネーターの仕事は、複数の人物や組織のコミュニケーションコスト(時間、労力や精神的な負担)を軽減することです。言い換えると「関わる人を楽にすること」です。そのため、辛いことや大変なこともあると思います。だからこそ、愚痴を吐き出せる仲間を大切にしてください。

### ② 誠実さ

コーディネーターは、他者のモチベーションに協働する意味付けをすることで、活動につなげることが役割となります。そのため強い倫理観と誠実であることが求められます。

### ③ プラントハッピスタンス (計画された偶然性)

キャリアにより影響を与えるのは偶然の出来事であり、それを導き出す要素は「好奇心」「持続性」「楽観性」「柔軟性」「冒険心」の5つだといわれています。日々の姿勢が、素敵な偶然を引き寄せ、成功に導くはず。やらない理由を探すよりやれる条件を見つけて行動しましょう。

#### 【受講者の感想】

- コーディネーターという仕事の解像度が上がりました。単につなぐということではなく、価値観まで深く理解した上で、様々な立場の人をつないでいくことの面白さ、難しさ、社会を大きく変える可能性に改めて気付かされました。(松前高等学校教諭 阿部 将大 氏)
- 地域コーディネーターに係る研修会に初めて参加させていただきました。「地域コーディネーターとはこういう感じかなと漠然と思っていましたが、本研修に参加して道しるべでできるものを得ることができました。(礼文町教育委員会社会教育係長 柴田 圭 氏)
- 感覚として感じていた必要だろうなと思う力を認識できたので、今後の目標ができました。技術的なところも多く必要とされるので、定期的な研修や自らが探究することも忘れてはならないと感じました。(当別町商工会高校魅力化コーディネーター 寺西 翔子 氏)

#### 参考資料

文部科学省  
高校コーディネーター  
スタート  
ガイドブック



## 3 地域と学校がともに学ぶ取組 ~200名の高校生が地域で学ぶ~

### ◆ 北海道恵庭北高等学校 (北海道MA+CHプロジェクト指定校) の取組から ◆

恵庭北高校は、各学年が6クラス(全18学級)ある大規模校です。取組2年次となる今年度からは、地域探究学習において1学年と2学年でフィールドワークがスタートしました。

2学年は、夏季休業中に個人でテーマを考え、休業明けにグループを作成、コンソーシアムメンバーとの事前相談(課題設定の点検・フィールドワークで行く場所の検討)を経て、フィールドワークを実施しました。1グループ3~5名で53グループあるため、2日間の日程で、1日約20か所を超える事業所等へグループごとに出かけました。活動先では、地域住民へのアンケート調査や関係者からの聞き取りはもとより、地域をアピールするSNS動画撮影に応じるなど、自分たちができることに積極的に取り組む様子が見られました。

探究推進部長の谷めぐみ教諭は、事前に道外の先進校視察を行い「生徒が人の心を動かし、人の役に立つ探究となるよう、学校規模が大きくても工夫しながら生徒を地域へ出して学ばせたかった。大規模校では、事前の調整や移動手段の工夫など課題も多くあるが、今後も数井雅之地学協働コーディネーターと協力して、生徒の学びを充実させていきたい」と話されていました。



社会教育課では、地学協働の推進とともに、子どもの読書活動の推進に関することについても取り組んでいます。今号は、道内の2管内から、学校図書館の好事例を紹介します。

## 【檜山管内】「憩いと学び」の学校図書館（乙部町立乙部中学校）



休み時間には、生徒も先生も図書館へ

### 生徒が主体となったアイデア豊富な図書館運営

乙部中学校の図書館は2階のオープンスペースにあるため、憩いの場となっており、異学年交流も盛んです。生徒の発案で、読書意欲向上に向けた「図書館利用増加キャンペーン」を実施しており、本を借りれば借りるほど素敵なしおりがもらえます。しおり獲得者をポスターにして掲示するなど、1年を通して全校的な盛り上がりにつながっています。

おすすめ本の紹介カードで制作する「図書の木」や、図書館の本を活用した「チャレンジ学習」も、学習委員会の生徒主体で運営しています。

### 充実した資料により授業を支える学校図書館

図書担当教諭が、生徒・教職員のために、将来についての本、行事に役立つ本、調べ学習に役立つ本など、多様な図書を取り揃えています。図書館の本を活用した授業では、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けて「フィッシュボウル※」という手法を取り入れています。要点を伝える・理解することが重要なこの活動は、読んだ内容を要約してカードを作る「おすすめ図書」、朝学習の「ヨミトレ」、オリジナル新聞づくりなどとも連動し、生徒の読解力を育てています。



フィッシュボウルの様子

※フィッシュボウル（金魚鉢）のように円になって、対話の内容を参加者全員で共有するための方法論。立場の異なる参加者が、お互いの観点を理解し、傾聴することを促進できる。（有福英幸（2022）「フィッシュボウル」『授業力&学級経営力』No.147 明治図書出版）

## 【留萌管内】本に親しむきっかけが広がる図書館（羽幌町立羽幌小学校）



### 学校司書による環境整備

羽幌小学校では、学校司書が中心となり、利用しやすい学校図書館づくりを進めています。祝日やオリンピックなど季節の話題に関連した本を展示した特集コーナーが図書館内に複数あるほか、調べ学習用図書や課題図書を集めて配架したり、司書による本の紹介カードを本棚に添えたりするなど、子どもたちが本に親しみやすい環境が整えられています。

### 地域と連携した、読書に親しむ機会を広げる取組

子どもたちがたくさんの本の中から自分の読みたい本を選ぶ「ブックフェスティバル」を、町立中央公民館図書室の蔵書や道立図書館の市町村活動支援事業による図書貸出しを活用して、毎年開催しています。また、「北海道子ども読書応援団」にも登録している地域の読み聞かせ団体が、月に2～3回、定期的に読み聞かせを実施しており、学校と地域が連携しながら、子どもたちが本を楽しみ、主体的に読書に向かう意欲を支える取組を行なっています。



題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE!』」

（公益社団法人 北海道観光振興機構）のフォトライブラリーから御提供いただいております。

● 掲載サイト <https://www.visit-hokkaido.jp/>

